

第5回香芝市望ましい学校環境検討委員会
議事要旨

令和7年8月27日

○香芝市の望ましい教育環境について（報告）

第4回検討委員会にて、「すべての児童・生徒が安全に安心して、個別最適な学びと協働的な学びにより、主体的・対話的で深い学びができる『地域とともにある教育環境』」と決定したことの報告

○幼稚園、こども園、保育所、小学校、中学校と、その先も踏まえて、校種を越えて切れ目なく連携した教育環境を念頭に協議を進めることが重要である

○望ましい教育環境を整備するための基本的な考え方には、安全・安心な学校環境、通学環境も教育環境として重要である旨を追記する必要がある

○1学級35人の標準について、根拠は国からも示されていない

○主体的・対話的で深い学びを実現するには、やはり一定規模以上の児童生徒数は必要になる

○学級数については、学校運営の面等も含めて総合的な観点での協議が必要

○望ましい学級規模の、24人からという設定は不要ではないか

○小中学校の再編を検討する条件例は、再検討するとともに、過半ではなく全学年が単学級となった場合等、検討を始める条件は表現を再考する方が良い

○市民の意向の反映方法について

- ・検討委員会としてアンケート調査の目的、方法を詰めることは難しく、次回以降の案件としては扱わないこととする
- ・学校運営協議会等での情報共有を行う
- ・行政の調査は行政として実施